

令和8年度第1回鶴岡市男女共同参画社会推進懇談会（会議概要）

- 日 時 令和8年7月28日（火）13時30分から15時まで
- 会 場 鶴岡市役所別棟21・22号会議室
- 出席委員 9名 青木孝弘委員（会長）、會田健委員、佐藤朋子委員、大場千里委員、佐藤奈美委員、池田ゆり子委員、白幡美希委員、平山陽子委員、大川尚委員
- 欠席委員 1名 板垣辰宣委員
- 市出席職員 企画部長 上野修
政策企画課主幹 吉田俊一、同主査 吉田真智子、同主任 榎本絵理子、
地域振興課課長補佐 飯野剛、コミュニティ推進課長 阿蘇英明、
こども家庭センター所長 本間育子、同主査 富樫由美子、
商工課主査 佐藤文博
- 傍聴者 1名
- 会議次第
 1. 開会
 2. あいさつ（企画部長、青木会長）
 3. 報告
令和7年度の主な取組、令和8年度の主な取組
 4. 意見交換
 - （1）市民意識調査について
 - （2）コミュニティの活性化、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた施策の方向性について
 5. その他
 6. 閉会

次第3. 報告 関連

事務局から資料1、2、3を基に説明した。

〔委員〕

教育現場では、男性教員が育児休業を取得する姿を生徒に見せることも重要である。

KPI である「市役所男性職員の育児休業取得率」が飛躍的に伸びているが、要因をどのように捉えているか。

〔企画部長〕

育児休業の取得を希望しない場合に理由確認を行うなど、取得することを前提とした対応により取得促進を図っている。

〔委員〕

アンコンシャス・バイアスの理解醸成が進んでいないと感じており、市広報による特集記事等により理解促進を図る必要があると考えるがいかがか。

〔 政策企画課主幹 〕

酒田市では、男女共同参画週間に四コマ漫画による事例紹介を行っていた。解りやすい啓発であったことから、近隣事例も研究しながら対応していきたい。

〔 委員 〕

つるおかエール奨学金返済支援事業について、令和 3 年度は 94 名の申請があったが、その後は 50 名程度の申請となっている。想定と比較した現状認識を伺いたい。

〔 政策企画課主幹 〕

申請以前に貸与された奨学金も支援対象としているため、初年度である令和 3 年度の申請者が多くなっている。前例の少ない支援であり判断が難しいところがあるが、見込みに近い人数であると捉えている。

〔 委員 〕

つるおかエール奨学金返済支援事業について、昨年度懇談会において地元回帰者 67 名のうち、女性が 47 名と伺った。女性若年層の地元定着が大きな課題と認識しているため、性別による傾向を中長期的に把握していただきたい。

次第 4．意見交換（１） 関連

事務局から資料 4 を基に説明した。

〔 委員 〕

回答者の属性を冒頭に求めると以後の回答が保守的となる傾向があるため、属性に関わる設問は最後とした方が良い。

〔 政策企画課主幹 〕

御指摘のとおり修正する。

〔 委員 〕

市民意識調査について、男女共同参画に関わる設問の直後に DV に関わる設問があり唐突に感じることから、地域活動に関わる設問と順番を逆にした方が良い。

〔 政策企画課主幹 〕

KPI 関連の設問を前半に寄せていたところだが、ご指摘のとおり唐突感が否めないため修正する。

〔 委員 〕

市民意識調査について、地域活動に関わる設問の背景として、回答者が地域活動の担い手が少ない実態を認識できていないことも想定されるため、調査背景の説明を追加した方が良い。

〔 政策企画課主幹 〕

配布資料では割愛しているが、実際の調査にあたっては、調査背景を追記する予定としている。

〔 委員 〕

若年層の地元回帰に関する調査について、「鶴岡で就職したくない理由」との表現が適切でないと思われるため「鶴岡での就職を選択しない理由」等の表現に改めるべき。

〔 政策企画課主幹 〕

ご指摘のとおり修正する。

〔 委員 〕

若年層の地元回帰に関する調査について、市外居住者に転出理由を伺う内容となっているが、市内居住者の要因を把握することが施策展開に役立つのではないか。

〔 政策企画課主幹 〕

調査対象としている「つるおかつながるミ LINE」の登録者は、主に進学のため市外転居した方であることから、市外居住者を対象とした設問としていたもの。登録者には市内居住者も含まれており、市内居住者の要因把握も有益であることから、御指摘のとおり設問を追加する。

〔 委員 〕

若年層の地元回帰に関する調査について、市内でなくとも庄内地域で就職する方もいるため、属性区分に「庄内在住」を追加した方が良い。また、市外の進学先を選択した理由として、将来の就職を見込んでいることも多いと考えられるため「就職に不利」等の選択肢を追加してはどうか。

〔 政策企画課主幹 〕

ご指摘のとおり追加する。

次第 4．意見交換（2） 関連

事務局から資料 5、6 を基に説明した。

〔 委員 〕

居住地域において、コミュニティ活動を支援する「鶴岡地域まちづくり未来事業」を活用していたが、昨年度で区切りとなったことから、継続ではなく新たな取組の検討が求められた。伴走支援はありがたいが、自走が求められると難しい側面もある。

郊外地のため高齢化が進んでおり、現役世代は就労しているため地域活動の担い手がいな。女性理事が 1 名のみだったこともあり、関連する会議にすべて出席する必要があるなど負担が大きかった。若い人を育てるのはかなり難しいと感じている。

〔 委員 〕

就職希望者の増加に繋がることを期待した企業から「くるみん」や「やまがたスマイル企業」について尋ねられることもあるため、認定企業への税制優遇などのメリット措置について把握したいとも考えている。

〔 委員 〕

社会保険労務士や税理士など、中小企業との密接な関わりがある分野と市との連携が図られれば良いのではないか。

〔 商工課主査 〕

社会保険労務士が参集する機会に市商工課や労働局が制度説明を行うなど、連携する機会をいただけるとありがたい。

〔 委員 〕

自社の「えるぼし」認定に携わっていたが、厚生労働省からの問い合わせ対応など人事部局の担当が複数名いたため取り組むことができた。「やまがたスマイル企業」は非常に取り組

みやすいが、雇用関係等の書類整理が必要であるため、バックアップいただければと思う。

〔 委員 〕

先日採用した職員は、「くるみん」取得企業であると聞いたことが応募のきっかけとのこと。当社では、今年は「えるぼし」取得を目指している。

以上